

2025年度第1回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 鶴舞特別

鶴舞（つるまい）は、愛知県名古屋市の昭和区の地名。その由来は、かつてこの地が海辺で鶴が多く舞ったから、あるいは精進川上流にあたるこの地が水流間（つるま。水の流れる窪地の意）にあったからなど、諸説ある。110年以上の歴史を有する和洋折衷の大公園である鶴舞（つるま）公園は、県内有数の桜の名所としても有名。

○ 門松ステークス

門松（かどまつ）は、正月に家の門口に飾る松の飾り。本来は年神（としがみ）の来臨する時の依り代の意味を持つ。一般的には竹・松などを用いるが、地方によってはナラ・サカキ・シキミなどの常緑樹を用いる。

○ スポーツニッポン賞京都金杯（GⅢ）

本競走は、1963年に創設された『迎春賞』を前身とする重賞競走。1966年に『スポーツニッポン賞金杯』と改称するとともに、別定重量戦となった。その後、1981年にハンデキャップ戦となり、1996年から東西で行われる金杯を区別するため、現在の競走名に改称された。また、2000年には芝2000mから1600mに短縮された。本年は阪神競馬場スタンドリフレッシュ工事に伴い、中京競馬場において1600mで実施される。

スポーツニッポン新聞社は、東京と大阪に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 天竜川特別

天竜川（てんりゅうがわ）は、中部地方を流れる延長213kmの川。長野県茅野市の八ヶ岳連峰に位置する赤岳を源に、諏訪盆地の水をいったん諏訪湖に集めた後、伊那盆地・遠州平野を経て、静岡県で遠州灘に注ぐ。流域には名勝「天竜峡」や、佐久間ダムをはじめとした多くのダムがある。

○ 寿ステークス

寿（ことぶき）は、祝うべき事柄。また、祝いの言葉や儀式のこと。

○ 万葉ステーキス

万葉（まんよう）は、現存する最古の和歌集である「万葉集」の略称。大伴家持が編纂に携わったとされ、仁徳天皇期から淳仁天皇期までの短歌・長歌・旋頭歌など約 4,500 首が収録されている。

<第3日>

○ 牛若丸ジャンプステーキス

牛若丸（うしわかまる）は、源平合戦で大活躍した源氏の武将、源義経の幼名。義経は、壇ノ浦の戦いで敵将平教経と遭遇した際に、8 艘の船を次々と飛び移ったと伝えられ、その様子は「八艘飛び」という伝説として知られている。

○ 渥美特別

渥美（あつみ）は、愛知県南東部の半島。西側の知多半島とともに三河湾を取り囲み、太平洋に面して約 50km の長い海岸線を有する。温暖な気候に恵まれ、全国有数の農業地域として有名。半島の南西端に位置する伊良湖岬には、海水浴などで毎年多くの観光客が訪れる。

○ 恵那特別

恵那（えな）は、岐阜県南東部の市。中心の大井はかつて中山道の宿駅であった。周辺には木曾川をせき止め、大井ダムの開発を行った際に形成された渓谷である恵那峡があり、四季折々の自然が楽しめる。

なお、同地には JRA の勝馬投票券の発売・払戻を実施する地方競馬施設である J-PLACE 恵那がある。

○ すばるステーキス（L）

すばるは、牡牛座にある散開星団、プレアデス星団の和名。数多くの星によって構成されているが、肉眼で確認できる星は 6 個程度であることから、「六連星（むつらぼし）」とも呼ばれる。

<第4日>

○ 天白川特別

天白川（てんぱくがわ）は、愛知県日進市から名古屋市を流れ、伊勢湾に注ぐ河川。名は、中京競馬場から程近い名古屋市緑区鳴海町の旧天白橋付近に天白神が祀ってあったことに由来する。

○ 新春ステークス

新春（しんしゅん）は、新年、正月の別称。1954年に国営競馬が日本中央競馬会へと移管されて以来、現存する最も古い競走名のひとつ。

○ 淀短距離ステークス（L）

淀（よど）は、京都市伏見区の地名。名は、川の水が淀むことに由来する。宇治川・桂川・木津川の合流点付近を占め、旧河床や自然堤防を利用した野菜栽培が盛んであったが、近年は急速な宅地化が進んでいる。また、京阪電鉄京阪本線の駅名にもなっており、京都競馬場の最寄り駅としても知られている。

<第5日>

○ 鳥羽特別

鳥羽（とば）は、三重県東部、志摩半島北東端の市。伊勢湾口に臨む鳥羽港を中心に市街地が発達している。古くは九鬼水軍の本拠地で、その後は江戸ー大阪間の帆船寄港地として栄えた。現在は真珠やカキの養殖業が盛ん。

○ 雅ステークス

雅（みやび）は、宮廷風であること、上品で優美なこと。江戸時代の国学者本居宣長は、平安時代の和歌、物語を含む古代文化の中心にあるものを「みやび」と呼んだ。

○ 日刊スポーツ賞シンザン記念（GⅢ）

本競走は、シンザン号の栄誉を称え1967年に創設された重賞競走。同馬は、1964年にセントライト号以来23年ぶり、日本競馬史上2頭目の三冠制覇という偉業を達成し、翌年には『天皇賞（秋）』と『有馬記念』も制して五冠馬の称号を得た。引退後も種牡馬として活躍し、1984年に顕彰馬に選出された。本年は阪神競馬場スタンドリフレッシュ工事に伴い、中京競馬場において芝1600mで実施される。

日刊スポーツ新聞社は、東京など全国に5ヶ所の本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○ 濃尾特別

濃尾（のうび）は、岐阜県と愛知県にまたがる沖積平野。かつての美濃国と尾張国にまたがって広がっていたことから、その名がつけられた。古くは京都から東へ物資を運ぶ際の中継地として栄え、現在では中京工業地帯の中心として名古屋市を中核に商工業が発達している。

○ 紅梅ステークス（L）

紅梅（こうばい）は、紅色の花が咲く梅。「源氏物語」第四十三帖の巻名でもある。梅は、中国原産のバラ科の落葉高木。300種類以上の品種があり、大別して野梅系・緋梅系・豊後系がある。花言葉は「忠実」「優美」。

○ 遠江ステークス

遠江（とおとうみ）は、旧国名のひとつで、略称は遠州。国府、国分寺は現在の静岡県磐田市にあったとされる。その昔、琵琶湖を奈良に近い淡水湖という意味で近淡海（ちかつあはうみ）と表記したのに対し、浜名湖を遠淡海（とおつあはうみ）としたことがその名の由来とされる。

<第7日>

○ 西尾特別

西尾（にしお）は、愛知県の中央を南北に流れる矢作川の下流域、知多半島と渥美半島の間に位置する市。全国有数の抹茶の生産地として有名。市内吉良町付近は、赤穂事件を題材にとった作品「忠臣蔵」の中で、敵役として描かれた吉良上野介義央の領地であったことでも知られている。

○ 豊川特別

豊川（とよかわ）は、愛知県南東部の市。市内東部には、愛知県北東部の鷹ノ巣山に源を発する豊川（とよがわ）が流れる。商売繁盛の神として知られる豊川稲荷や、十返舎一九の「東海道中膝栗毛」にも登場する御油（ごゆ）のマツ並木などが有名。

○ 日経新春杯（GⅡ）

本競走は、1954年に『日本経済新春杯』として創設された重賞競走。1979年に現在の競走名に改称された。1981年から1993年までは別定重量戦で実施されていたが、1994年以降はハンデキャップ戦に変更されている。本年は阪神競馬場スタンドリフレッシュ工事に伴い、中京競馬場において芝2200mで実施される。

日本経済新聞社は、東京と大阪に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第8日>

○ 若駒ステークス（L）

若駒（わかごま）は、若い馬のこと。本競走は、春のクラシック戦線を占う一戦として知られている。

○ 刈谷特別

刈谷（かりや）は、愛知県中部の市。地名は、877年に出雲から一族を連れ移住した狩谷出雲守の名に由来する。自動車関連産業が盛ん。また、伊勢湾岸自動車道直結の複合施設、刈谷ハイウェイオアシスが有名で、高速道路の利用客に加え、多くの観光客で賑わっている。

○ 瀬戸ステークス

瀬戸（せと）は、愛知県北部の市。良質の陶土を産し、日本有数の陶磁器の産地として有名。陶磁器の代名詞である「せともの」の由来となっている。

<第9日>

○ 茶臼山高原特別

茶臼山高原（ちゃうすやまこうげん）は、愛知県北東部の高原地帯。愛知県最高峰となる標高1,415mの茶臼山を中心に広がり、一帯は天竜奥三河国定公園に指定されている。萩太郎山の山頂付近には芝桜が群生しており、初夏に行われる「芝桜まつり」には、県内外から多くの観光客が訪れるほか、南アルプスも一望できる。

○ トリトンステークス

トリトン (Triton) は、ギリシャ神話に登場する半人半魚の海の神で、父はポセイドン、異母弟はオリオン。名古屋港に架かる名港西大橋・名港中央大橋・名港東大橋の3つの斜張橋は、海の守護神になぞらえ、また、3つを意味する「tri-」から「名港トリトン」と呼ばれ、ドライブコースとして人気がある。

○ プロキオンステークス (G II)

本競走は、1996年に創設された重賞競走。『フェブラリーステークス』の前哨戦 (『東海ステークス』。1984年に創設された『ウインターステークス』を前身とする重賞競走。) が2025年から関西主場へ移設されたことを機に、競走名を改称し、実施される。本年は阪神競馬場スタンドリフレッシュ工事に伴い、中京競馬場においてダート1800mで実施される。

また、第1着馬には同年の『フェブラリーステークス』への優先出走権が与えられる。

プロキオン (Procyon) は、こいぬ座のアルファ星で、シリウス、ベテルギウスとともに「冬の大三角」を形作る恒星。